

東海大 ソーラーカー 世界一を目指せ!

東海大 またまたまた壮大チャレンジ!



ソーラーカーを前に意気込む篠塚(左端)と東海大チームのメンバー。平塚市の岡大湘南キャンパスで(北村彰撮影)

篠塚の経験と学生魂

最強、コラボ

10月24日から「グローバル・グリーン・チャレンジ」

東海大学は7日、神奈川県平塚市の湘南キャンパスで、グリーンエネルギー車両で競う世界最大規模のレース「グローバル・グリーン・チャレンジ」(10月24、31日、オーストラリア)への参加概要発表を行った。同大学のチャレンジセンター・ライトパワープロジェクトの学生らが制作したソーラーカー「Tokai Challenger」と自ら組織したチームで挑む。昨年度は、チャレンジャー陣を率いるのは同大学OBの篠塚建次郎(60)で、早速予選を披露して上位進出を誓った。

昨年南アでいきなりV

「上位争いしたい」と熱っぽく語った篠塚

昨年の仏ルマン24時間レース挑戦など個性的な活動をしている東海大が、また世間の耳目を引きつけるチャレンジの概要を発表した。

「今年もまた東海大の学生と一緒にレースをすることにしました。昨年、南アの大会に参加させてもらい、20代の学生と過ごして大きな刺激となりました。私の経験、そして学生たちのチャレンジ精神をコラボしていきたい」と篠塚。昨年の9月末から10月にかけて、岡大のライトパワープロジェクトの学生らが制作した世界トップレベルのソーラーカーで、事実上の世界一を競うレースに参加する。もちろん学生が中心のプロジェクトだが、ドライバーにはタカハシなど活躍した経験者が名を連ねる。

「今年もまた東海大の学生と一緒にレースをすることにしました。昨年、南アの大会に参加させてもらい、20代の学生と過ごして大きな刺激となりました。私の経験、そして学生たちのチャレンジ精神をコラボしていきたい」と篠塚。昨年の9月末から10月にかけて、岡大のライトパワープロジェクトの学生らが制作した世界トップレベルのソーラーカーで、事実上の世界一を競うレースに参加する。もちろん学生が中心のプロジェクトだが、ドライバーにはタカハシなど活躍した経験者が名を連ねる。

★参戦スケジュール 9月中旬、秋田県・大館村のソーラーポットラインでテスト走行を行い、今月末に愛州へ輸送。18、22日にダーウィンで整備および公道テスト。23日が公式車検、24日が予選、25日にダーウィンスタートし、28日にアデレードにゴール。

★チーム体制 東海大工学部電気電子工学科の木村英樹教授がプロジェクトアドバイザーを務め、チームマネジャーは同3年の竹内豪。ドライバーは篠塚のほか、工学部電気動力機械工学科2年の伊藤樹。

同4年の徳田光太、工学部OBの佐川耕平ら総勢19人。

★Tokai Challenger 全長4980mm×全幅1640mm×全高956mmの大きさで、重量は150kg以下の超軽量。

シャープ製の交換効率30%の化合物太陽電池を規定の6平方メートルに敷き詰め、トップクラスの1.8%の出力を誇る。

記者発表直後に篠塚が披露した走行を行い、「去年のクルマより大分乗りやすい。直線が多いのでサスのセッティングもあらかじめだくになっていた。」

東海大の体制は、学生チームとして申し分のないもの。昨年12月に設計をスタートさせた「Tokai Challenger」は、お披露目されたこの日朝に完成するという機だ。だが、ソーラーカーの肝になる太陽電池

太陽電池には、人工衛星などで使われる宇宙用化合物太陽電池を搭載。日本でも唯一、宇宙航空研究開発機構(JAXA)に認定されたメーカーのシャープが、宇宙以外の使用で初めて提供したという。家庭用の太陽電池の変換効率が15%なのに対し、化合物電池では世界最高水準の30%を記録する最先端技術だ。

そのほか、炭素繊維強化プラスチック製のボディも新たに開発し、タイヤもモシユラン製のソーラーカー専用世界に挑める体制を築いたという。パネルから向かって新しいので、1回ゆっくりとテストをすることが大切。でも、基本は学生がたくさんの経験をすることだからと篠塚、自分の子供と同等の若者と力を合わせ、まったく新しい世界一への挑戦に意欲満々だ。(田村尚之)



デモ走行も注目を集めた